

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 欠席委員連絡（能登谷委員、小野沢委員）
-

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

1 調査事件

(1) 介護予防の推進について

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、今後の取り組みの方向性や推進方策を整理することとしていた。
- ・ そこで正副として、これまでの調査を踏まえ、皆様から出された御意見を集約・整理したものを資料1、2として8月20日付で、配付させていただいた。そこで本日はこの資料について、私のほうから説明した上で、皆様から御意見を伺いながら、今後の取り組みの方向性を検討していきたいと思うが、いかがか。（異議なし）
- ・ では、そのように進める。
- ・ 資料説明：資料1 民生常任委員会所管事務調査「介護予防の推進について」調査概要
(正副委員長調製資料)
資料2 函館市議会民生常任委員会 所管事務調査結果（案）（正副委員長調製資料）
- ・ これを踏まえて、各委員から取り組みの方向性として御意見はあるか。

○金澤 浩幸委員

- ・ 全体的に調査した内容も入れていただき、こういう方向性なんだろうと思うが。ただ、イメージとしてはわかるが、実際に一人一人の方の介護予防にどうやってつなげて、介護予防していかなきゃいけない人と、連携をどうやってつくってあげるのか、そこにいかに行ってもらえるかというのをどうやってつくっていくのかというのがちょっと疑問というか、実際の問題としてどうやっていくのが、ちょっと見えないのかなど。今まで保健福祉部で取り組んでいるような、例えばここで出てくるサポーターの養成講座とか、そういうところに集まってきた人たちに、何かをつくってもらって、そこで地域の皆さんに実際に集まってもらう方策をどうやってつくっていくのかというのがちょっと引かかるかなと思っていた。
- ・ うちの母親の例だが、地域活動に取り組んで、はまって町会なんかも行っていたが、やっぱり足が悪くなると行かなくなる。結局今は整形外科の病院でリハビリの先生がいるところに行っている。週に2回そのリハビリの先生がいる病院が家まで迎えに来てくれるから、そのバスに乗って病院に行くと、病院でリハビリがてら介護予防、運動をやっている。それだと病院のほうの話なので当然お金も発生する。そうじゃない、そういう取り組みをグループの人たちにいかにやってもらうかが、行政が

取り組んでいくことなのかなと思うので、そこらへんどうつくっていくのかなというのがなんかほしいなど。委員会として理事者側にこういうことをやったらいいんじゃないかみたいなのを最後のまとめとしてほしいなというのが意見だ。

○道畑 克雄委員

- ・ 金澤委員の発言に関連する。委員会として出すのは、課題と取り組みの方向性ということなので、今金澤委員が言われた部分はもし書くんだとすれば、こういったことを行政に期待しますみたいな部分を添えるというか、それくらいで。あとどれだけのボリュームで、どれだけのメニューつくれるかというのは、なかなか予算の問題もあるだろうし、資源の問題もあるだろうから、そこは少し行政に委ねるしかないのかなと思う。もしまとめということで作るのであればそういったことを書いてということが一つの考え方になると思う。

○福島 恭二委員

- ・ まとめとしてはよくできたと思う。1の「若い頃から健康づくりと一体となった介護予防活動」は特に、行政の部局内の連携強化というのは昔から叫ばれてきたことで、その結果、福祉部を保健福祉部とって、保健所と合併してやってきた。現時点の段階で考えてそれがその発想のとおり生かされて機能しているかといえば、我々としてはこういったまとめをせざるを得ないという状況も考慮すると、結局当初、病気になる前の健康予防、予防対策を重点的に取り組んでいくことがすべてに通じるという思いもあるので、それが機能してないんじゃないかなど。やっぱりばらばらで連携がうまくいっていないのではないかなど思ったりもする。これをまとめとして提起するに当たっては、あらためてこういったことが目的のとおりきちんと、連携を取りながら、部局のみならず横断的に全行政的に取り組んでいかなければ解決できない問題だけに、まず目的の達成のために、きちんと生かされるような取り組みをしてほしい。していかなければ効果が出ないのではないかなどと思う。そこは意見として申しておきたい。

○池亀 睦子委員

- ・ 行政調査のまとめとしてはもれなく表現をしていただいたと思う。よくまとめてらっしゃるなというのをまず感じた。
- ・ 函館市もしっかり取り組みはされている。じゃあそれがなぜ浸透していかないのかという分析等もしっかりやるべきだということをすごく思っている、いつも。いろいろ発信するだけでなく、なぜ浸透していかないのかというアセスメントをしっかりやるということも、介護予防推進では大事な部分だと感じている。私の町会でもタオル体操が始まったら、これなら家でもできるって。個人における継続性だ。町会で定期的に指導してもらって、月2回。あとは家でやれる。そういう連動していくような介護予防。ちゃんとまとめに網羅されてはいるが。そういう集って学習したことを継続的に自宅のできる流れをいかにつくるかが、超高齢化社会に向かって大事だなと。もっと踏み込んで言いたいがやめておくが。やっぱり女性が圧倒的に、この間の戦没者の遺族の皆さんを見ても圧倒的に女性が残っていらっしゃるの、女性リーダーの推進も大事なのかなという気もした。それはちょっと書かなくていいが、感想として。やっぱり連動する介護予防というのにしっかり力を入れていくという意味では。全体としてはまとめてあるので、家でできるとかっていうところで。進まないアセスメント

をしっかりとやっていただきたいということを最後に申し上げたい。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 皆様からいろんな意見をいただいた。せっかく昨年ことしと2年かけてこの介護予防の推進についてまとめてきたので、これをただ単に調査結果というだけでなく、関係部局にこれまでの調査を踏まえて、委員会として提言をしていきたいと、正副としては思っている。様々な御意見があったが、今現在ある地域包括支援センターとも私たち実際にお話しもさせていただいた。そこをしっかりと、今ある地域包括支援センターをしっかりと生かしていくということも非常に大事なと思うし、横断的な連携はもちろん大事だが、部局内が・・・視察した先でもそうだったが、健康増進事業と介護予防事業とが一体になって取り組んでいるところもあった。せっかく函館市も今までは保健所と福祉部が別々になっていたところが保健福祉部と一つの部になったことも考えると、中でしっかりと連携を取っていただくというのも、私も大変重要ではないかと思っている。皆さんの御意見を踏まえて取り組みの方向ということをもとめていきたいと思っている。
- ・ 今後の調査の進め方としては、今までの御意見をまとめて提言書を正副で作成させていただき、次回の委員会で最終的な取りまとめに向けた協議を行っていきたいと考えているが、そのような進め方でよろしいか。（異議なし）
- ・ 異議がないので、そのように確認する。
- ・ その他、本件について、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 議題終結宣言

2 その他

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 次に、2のその他だが、閉会中に委員会が行った審査及び調査については、次の定例会で報告することとなるが、委員長の報告文については、委員長に一任に願いたいと思う。これに異議ないか。（異議なし）
- ・ その他、各委員から何か発言あるか。

○道畑 克雄委員

- ・ この間非公式な形で皆さんに打診させていただいた、陳情第3号で出されてた、意見書を出してほしいという話だが、この間は皆さん御覧になっていないとの話だったので、頭出しといたしますか。平成31年度の地方消費者行政の強化交付金というのがあるのだが、年々減らされてきているということで、消費生活相談等の部分が自治体によっては相談員が減るだとかそういった影響が出ているところもあるというお話がある。陳情としては期限が切れているので扱うことにはならないが、中の主旨として出されていた意見書を議会からということだが、民生常任委員会から提案することが形としては望ましいのかなと思うので、そのことについて委員会から出すことでいかがか、皆さまにお諮りをさせていただきたい。協議していただければと思う。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ これについていかがか。委員会として。

○道畑 克雄委員

- ・ 弁護士さん達、消費生活相談——法律に絡むような事件になったら相談を受ける立場にあるから、行政で充実させてほしいということだが、もらっている交付金があるが、年々減らされてきていて、函館市はまだそれほど影響は出てないが、自治体によっては相談員が置けなくなったりとか減らさなきゃならないということが起きている自治体もあるようだということで、弁護士会からぜひ国に自治体から、必要な分きちんと出してもらおうような要望をしていただきたいという話が。

○金澤 浩幸委員

- ・ 会派として、会派の会議にまだかけてないので、ちょっと待つてほしい。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ では各会派で持ち帰って、委員会として出すかどうかと。委員会でするのであれば、全会派一致ということになっているので、そのあたり各会派で。

○道畑 克雄委員

- ・ いらっしゃらない会派もあるので。

○金澤 浩幸委員

- ・ 最低いつまで。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 9月議会を出したいと思っていた。

○道畑 克雄委員

- ・ 次の常任委員会で整理できれば最終の上程日とかでもいいのかと思う。もし賛同できない会派があったことも考えて、賛同できる会派で作業を進めることも可能になるように、意見書としては会派から提出することもあり得るという前提で、意見書調整会議には持っていきたい。途中で全会派一致で出せるようであれば、会派からの取り下げさせてもらうという扱いでさせてもらったらいいのかなと。そのように意見書調整会議の中で出そうと思っていた。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ そのような形でよろしいか。（はい）
- ・ 会派に持ち帰って検討していただくということでよろしく願います。
- ・ ほかに発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前10時28分散会